

世界遺産

ほっそうしゅう
法相宗 大本山
薬師寺



お写経のご案内



薬師寺建立を発願された天武天皇は、お写経の功德による国家安穩と万民豊樂を願ひ、一切経のお写経をはじめられました。

薬師寺では昭和43年から昭和・平成・令和の日本人の美しい心の結晶として、お写経による白鳳伽藍復興勸進を行い、今日まで大勢の方にご縁をいただき、お写経をお納めいただいております。

お写経は一文字一文字を丁寧に書き写すことで心を落ち着けるための仏教の修行です。自らの心のあり方を見つめる機会とされることをお勧め致します。

お納めいただいた薬師寺のお写経は、堂内の納経蔵にて永代にご供養をさせていただきます。

【お写経道場のご案内】

○年中無休。静かな落ち着いた環境でお写経をしていただけます。

○冷暖房完備で、お写経用具一式が揃った椅子席です。

○個人でのお写経は予約不要です。(団体は要事前連絡)



お写経について

〒630-8563 奈良市西ノ京町 457
法相宗 大本山 薬師寺

TEL (0742)33-6001
FAX (0742)33-6004
URL: <https://yakushiji.or.jp>



〒141-0022 品川区東五反田 5-15-17
薬師寺東京別院

TEL (03)3443-1620
FAX (03)3449-5963
URL: <https://yakushiji.or.jp/tokyo>



金堂 昭和51年(1976)再建

薬師如来の浄瑠璃世界を彷彿とさせる堂塔は龍宮造りと呼ばれましたが、享禄元年(1528)焼失し、慶長5年(1600)に仮金堂が建立されました。その後、宮大工の名工である西岡常一棟梁により、昭和46年(1971)から5年の歳月をかけて、創建当初の姿で再建されました。



大講堂 平成15年(2003)再建

多くの学僧が仏教の教学を学んだ古代の伽藍では、金堂よりも講堂が大規模でした。平成15年(2003)に再建され、伝統工法による復元建築としては史上最大級です。本尊は弥勒三尊像(重要文化財・奈良時代)、後堂には仏足石と仏足跡歌碑(共に国宝・奈良時代)を安置し、仏足石の両脇には中村晋也氏による釈迦十大弟子が祀られています。

西塔 昭和56年(1981)再建

享禄元年(1528)に創建以来の建物は焼失したため、昭和の東塔への綿密な調査に基づいて設計され、伝統的な木造建築の工法で再建されました。屋根の勾配をゆるくし、また、青に塗った連子窓を設ける点は、創建当時の形式によります。内陣には、中村晋也氏による釈迦八相像のうち、成道・転法輪・涅槃・分舎利の果相四相が祀られています。

東塔 国宝・白鳳時代

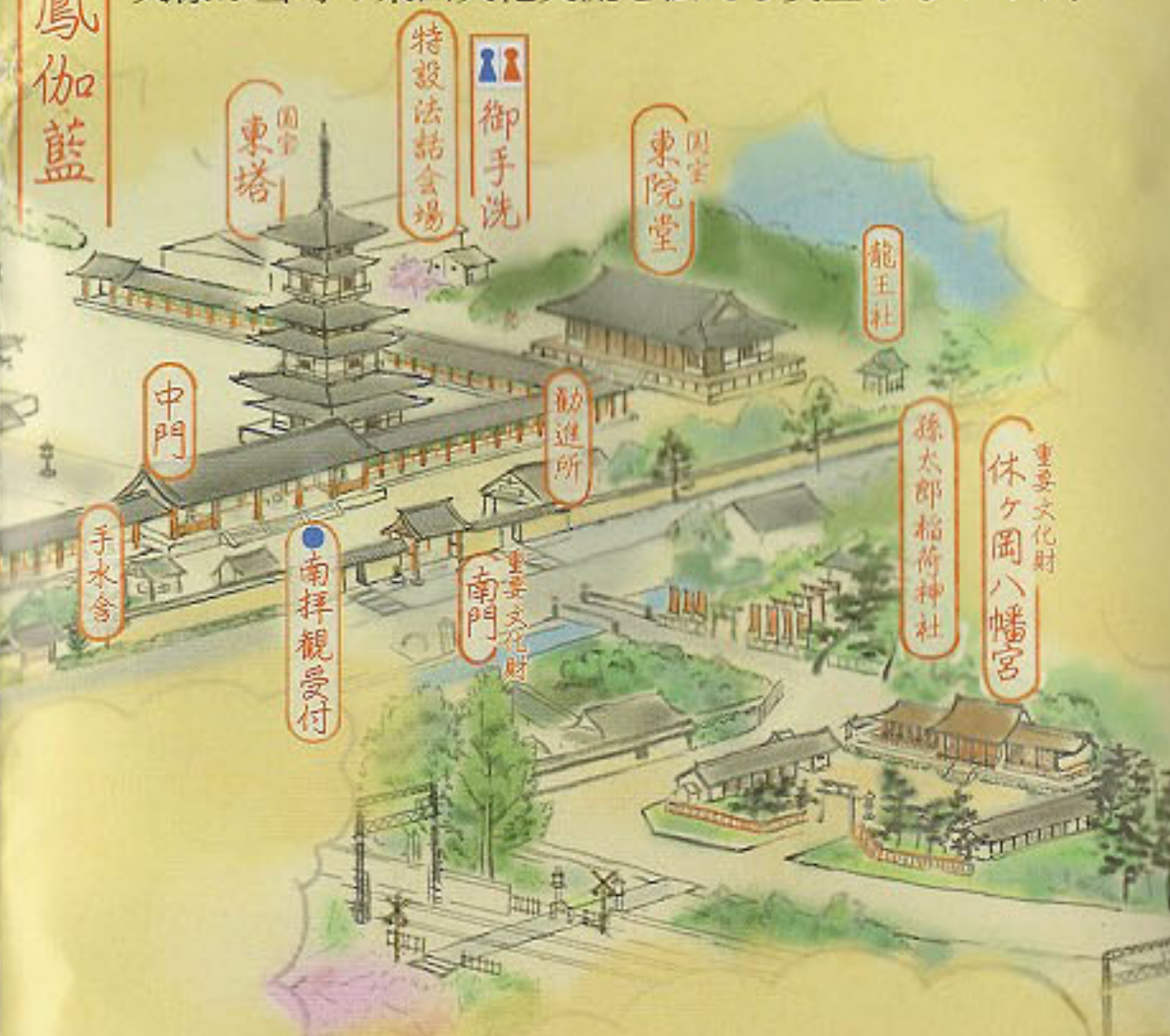
創建当時から残る唯一の建物。各層に裳階をつけているため六重に見えますが、三重の塔。この特異な形が、全体として律動的な美しさを保ち、“凍れる音楽”と称され親しまれています。平成21年から12年をかけて、初の全面解体大修理が行われ、その姿を未来に伝えます。これを機に1300年の年月を経た水煙は役目を終え、平成の水煙に取り換えられています。内陣には、中村晋也氏による釈迦八相像のうち、入胎・受生・受樂・苦行の因相四相が祀られています。

薬師三尊像 国宝・白鳳時代 **金堂安置**



中央に薬師如来、向かって右が日光菩薩、左が月光菩薩、合わせて薬師三尊といいます。薬師如来は東方浄瑠璃浄土の教主で、私たちの身と心の健康を護る仏様です。脇侍の日光・月光菩薩は、動きのある美しい姿で、理想的な写実美を完成した仏様といわれています。また、本尊台座の文様は当時の東西文化交流を伝える貴重なものです。

白鳳伽藍



スマートフォンで確認できる
薬師寺境内図と拝観順路



南拝観受付
(駐車場側
から入山の方)



北拝観受付
(西ノ京駅側
から入山の方)

東院堂 国宝・鎌倉時代

東院堂は養老年間に吉備内親王が、元明天皇の冥福を祈り、発願し建立されました。現在の建物は、弘安8年(1285)に再建され、享保18年(1733)に西向きにされています。奈良時代は土間が通常ですが、再建にあたり板床に造り変えられています。鎌倉時代の建築様式を巧みに残しており、日本最古の禅堂として知られています。

聖観世音菩薩立像 国宝・白鳳時代 **東院堂安置**

さまざまな観世音菩薩の中で、変化されていない本来のお姿なので「聖観世音菩薩」と呼ばれます。肩のあたりまで幾筋かに分かれて下がる垂髪、二重の首飾り、透きとおるような衣服、花びらのような繊細で美しい指の動き、そして直線的な姿勢。これらは、インドのグプタ王朝の影響を強く受けています。本像を囲むように四天王像(重要文化財・鎌倉時代)が祀られています。



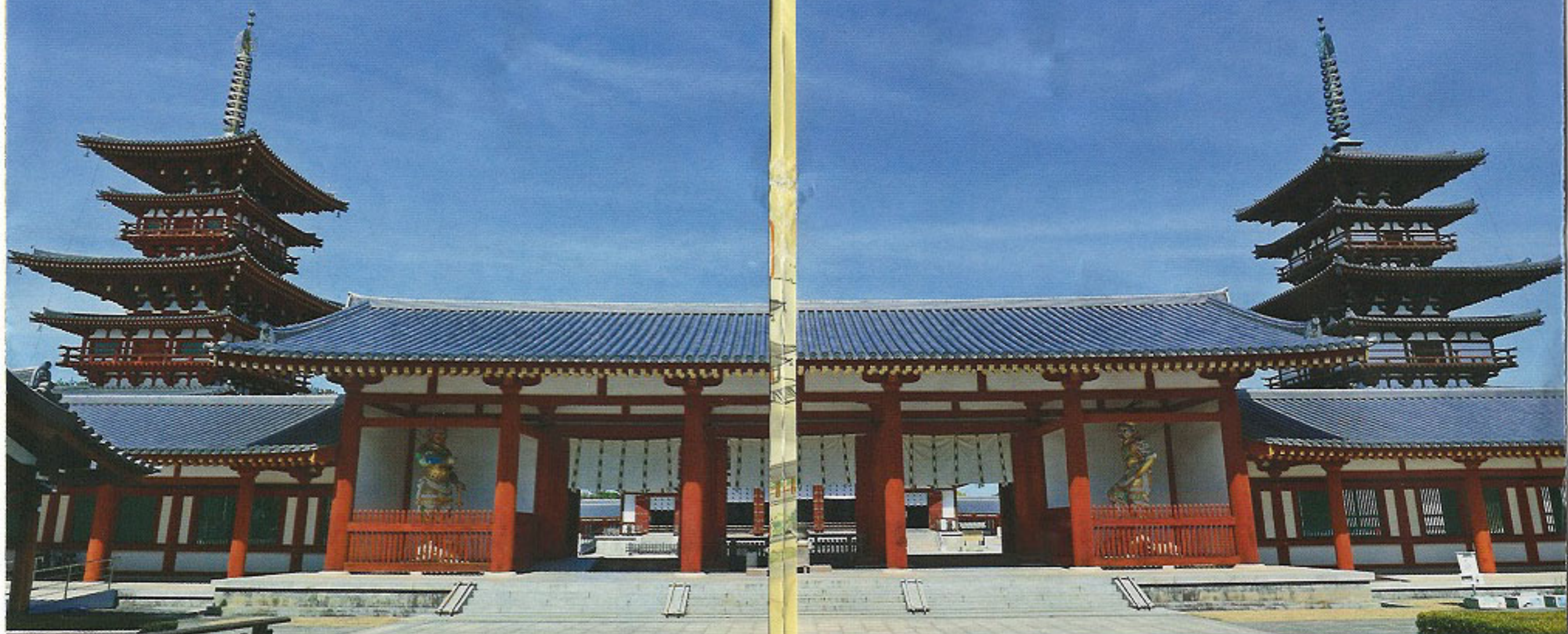
南駐車場



薬師寺縁起

薬師寺は天武九年（六八〇）天武天皇により発願され、持統十一年（六九七）持統天皇によって本尊を開眼、さらに文武天皇の御代に至り、飛鳥藤原京において堂宇の完成をみました。その後和銅三年（七一〇）の平城遷都に伴い、養老二年（七一八）、平城京右京に移されました。東西両塔を有する薬師寺式伽藍は我が国随一の壮美を誇っていました。しかし、度重なる災害によって諸堂が灰燼に帰し、昭和初期に至っては辛うじて難を逃れた東塔だけが、往古のたたずまいを偲ばせておりました。失われた堂宇の再建は、薬師寺の大悲願でした。昭和四十二年（一九六七）高田好胤管主により、お写経勸進による白鳳伽藍の復興が発願され、金堂、西塔、中門、回廊、大講堂、食堂を再建。白鳳伽藍の壮麗な美しさがよみがえりました。

お写経によるご結縁を頂戴し、その尊い功德によって建立された堂塔は、まさに浄らかな心の結晶です。この壮麗な大伽藍の美しさは「龍宮造り」と呼ばれ、千三百年という長い歴史の时空を超え、今なお信仰と美術が見事に調和し息づいています。平成十年（一九九八）十二月には世界遺産に登録されました。現代においては、伝統を生かして次世代に継承することと人々の心の復興が大きな課題です。迷い多い世の中に悩む人々が浄らかな心・感謝の心を持ち、身心安楽を得られることを、薬師寺は願っております。



年中行事

- 一月一日 修正会 しゆしょうえ
- 三月二十三日 お身拭い
- 三月二十五〜三十一日 修二会花会式 しゆにえはなえしき
- 三月三十一日 鬼追い式 おにおし
- 四月中旬 最勝会 さいしょうえ
- 五月五日 玄奘三蔵会大祭 げんじょうさんぞうたいさい
- 八月十三〜十五日 孟蘭盆会 ぼらぼんえ
- 十月八日 天武忌・万燈会 てんむぎ・まんとらえ
- 十一月十三日 慈恩会（隔年） じおんえ
- 十二月二十九日 お身拭い
- 十二月三十一日 除夜の鐘

月例行事

- 薬師縁日 毎月八日
 - 午前十一時 薬師縁日法要
 - 午後一時 法話
- 玄奘縁日 毎月五日
 - 午後一時 玄奘縁日法要
 - 午後二時 法話
- 弥勒縁日 毎月第三日曜日
 - 午前十一時 弥勒縁日法要
 - 午後一時 月例まほろば塾

※日程などが変更になる場合がございます。詳細は公式サイトをご覧ください。



行事のご案内